



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校 令和元年 9月27日

“誰かの役に立つ”ということ…。

校長 菅原 透



優勝：白組
応援賞：赤組

朝晩の空気がヒンヤリして、暑がりの私も上着を羽織るようになりました。皆さんはどんな“○○の秋”を楽しみにしておられるでしょうか。

さて、本校では、高学年による朝清掃ボランティアが始まりました。校舎内に綿ごみが発生する不思議を以前お伝えしましたが、子ども達の手によってそれがきれいになってきました。我が母校への愛着が深まれば…、高学年へのあこがれが高まれば…、そんな期待が生まれます。

ボランティアと言えば…、本校では、クラブ活動を地域の皆様からご指導いただいています。子ども達のために時間を作っておいでくださり、専門的なスキルはもとより、人となりにふれる大切な機会となっています。また、昨年度から荒砥1区の皆様を中心に“荒砥見守り隊”が発足されました。下校時の寄り添いを自主的にお取り組みいただいています。さらに、先日は、白鷹町更生保護女性会の皆様に、朝、子ども達への温かなあいさつとともにしおりを手渡しいただきました。『ありがとう』『ごめんなさい』は魔法のことば。あなたとわたしを優しく変えてくれる。」しおりに記された言葉が

心に染み入ります。朝の立哨指導を長年続けてくださっておられる方、放課後子どもクラブで子ども達をご面倒いただいている方…。本当にたくさんの方々から子ども達を、学校を、支えていただいております。感謝！感謝！！です。

運動会の応援練習終了後、子ども達からこんな言葉をかけられました。

「校長先生、今、ぼく達、昇降口の泥除けマットをきれいにしてきました。」

自軍の得点に加算されないかとの願望も含まれていましたが、自分の行いでみんなに貢献したいという言動に成長を感じました。運動会で燃えた姿も、自軍の優勝と応援賞獲得へ団結したものでした。

毎朝の計画委員によるあいさつ運動も学校をよくしようという気概の表れ。現在「99点」まで自己評価が上がりました。代表委員会が「誰かの役に立てることは何か」を協議題に話し合いを持つなど、自分から行動を興し、良い姿をめざそうとする勢いが出ています。荒砥小学校の高みをめざし、地域に元気をお届けできることは何か…も探してみたいと考えています。今後とも皆様からのご指導とご支援をよろしくお願いたします。

